うたごえ新聞

編集　日本のうたごえ実行委員会
発行　音楽センター
東京都新宿区西大久保3の67
電話（36）5220～1
1ケ月　30円（〒共）
3カ月　90円、6ケ月180円、1年350円

うたごえは平和の力〃
うたは
たたかいとともに

日本のうたごえにかたく結ばれる
親愛なる全国の皆様
日本のうたごえが平和の力として更に多くの人々の生活をまもるたたかいの励ましとなるように
あなたの周囲に真実のよろこびがひろがり平和と幸福をもとめる人々にあなたの歌ごえが力となるように
あなたが御健康で新鮮なお心で更にうたごえの道をきりひらいて進んでくださるよう
新年にあたつて心からの感謝と共に御願い申上げます

新年おめでとう　うたごえます
関鑑子

すばらしかつた日本のうたごえ

関鑑子先生　ソロドブニコフ団長　対談

十二月八日の〃日本のうたごえ〃にモスクワ芸術座のメンバー六名が出席した。モスクワ芸術座の団長ソロドブニコフ氏は〃日本のうたごえ〃に積極的な意向を示し、十二月二十日、関先生と約五十分にわたり歓談した。会合は終始なごやかな中にも真剣に行われ、最後にソロドブニコフ氏が、自身の写真機をもつて撮影し、関先生からはうたごえのバッヂを、またソロドブニコフ氏からはモスクワ芸術座の鴎のマークのバッヂが贈られ、会合を終つた。

関　日本のうたごえにいらつしやつていただいて、どうもありがとうございます。今晩は御礼にまいりました。

ソ　日本のうたごえは大変すばらしく私の方から御礼をします。

関　日本のうたごえに参加した人達が、あなた方の御意見を非常に聞きたがつています。モスクワ芸術座は、完成された芸術をもつていらつしやいます。日本では以前音楽を自分のものにすることが出来なかつた人々が、この十年間、この運動を続けてきました。先日の日本のうたごえをどう御覧になつたか興味があります。

ソ　まず最初に十年間という短い期間に運動を今迄になさつて来てこゝまで日本のうたごえが大衆にひろまつた成果に感激した事、ことを御伝えを申します。第一に祭典を立派に組織された御努力に敬意を表します。日本のうたごえに示された演奏はどんな規格にもあてはまらないものです。あそこに集つた人々は聴衆であり、演奏への参加者でした。これは大変すばらしいことです。又中央舞台、会場の右に、左に演奏者がいて演奏する演出は大変きれいでした。面白いのは聴衆と出演者の差がないことでした。私達自身も腕を組んで歌をうたつた位ですから。それから祭典の選び方が面白い舞台への出、引込みの間に退屈があるものだが、それが全然ないことには感心しました。このためには力をうまく配分されているのだろうと思います。うたごえでロシア、ソビエトの歌が多くうたわれ普及されているのには大変嬉しく思いました又「オネーギン」のレンスキーには全く感激し涙が出ました。歌い手は何と云う人ですか？

関　日本のうたごえではいつも若い、秀れた芸術家を紹介しています。今年の中村健さんは日本放送協会と毎日新聞の声楽コンクールで一位に入られた方です

ソ　特に私達にとつてうれしいのは芸術を通じて日本の人達が友好の気持を持つていることです

関　私達はソビエトの作曲家に感謝しています、ソビエトの作曲家は誰もが愛好する秀れた歌曲を数多く作りました、日本の人達はそれらの歌を自分達の歌としてうたつています、

ソ　先日早稲田大学を訪問した際懇談の後で学生が校歌を歌つてくれましたが、組合歌が各労働組合にはあるのですか、

関　ほとんどの労働組合に組合歌があります

ソ　近い将来に組合歌のコンクールをやつてはどうですか

関　同感です、組合歌は専門家が作つたもの等色々ありますから面白いと思います。

以下モスクワ芸術座の公演の話等つきるところなく続いた。

新たな斗いに うたごえに期待する

日本原水協理事長　安井郁

原水爆禁止運動は云う迄もなく第二次世界大戦後の運動である。一九五四年のビキニの水爆実験以来、久保山さんの尊い人命の犠牲の上に、運動は、全国民的な運動になつたと私はみている。それから数えると原水爆禁止運動は今年で満五年になる。

十二月十六日に原水禁全国総会を開き、そこで問題になつた事は来年は原子戦争を起そうとする勢力との対決の年である云う事であつた。更に運動方針の中では、核兵器の即時永久廃棄、全世界の核武装に関連する問題として日米安保条約改訂反対、安保条約の本質を再検討し、安保条約廃棄を運動にして行く。

原子戦争を起そうとする力との対決は国内では、平和運動及数々の民主々義運動に対する抑圧、迫害を加えて来る可能性がある。これらをはね返しながら、日本全国の原水協組織を総動員して行きたい。

一九五九年の運動を進める方法として私は二つあると思う。第一に徹底的な学習である。大衆と共に学ぶと同時に、平和の力をつよめ必ず平和の力が勝利をすると云う確信をふかめたい。真実を学ぶ事によつて大衆と共に闘いをすゝめたい。第二に、うたごえである闘いがはげしくなつた時に、学習で理論武装すると共に大衆の気持をうたごえではげましたい。一九五八年の日本のうたごえが〃うたは斗いとともに〃のスローガンをかゝげたのは大変タイムリーだつた。一九五九年のうたごえが、真に大衆を勇気ずけ、はげます大きな力として立派に仕事を果されることを期待する。（談話）

アジア・アフリカの歌を

アルジェリア極東代表部、アブドルラーマン・キワン氏

日本のうたごえは大変すばらしく組織され非常に大きなものであることに驚いた。多くの国々の人たちが、歌を通じて友好のキズナを強めることは素晴らしい。

残念乍ら日本のうたごえで歌われた歌は、日本は別として、ソビエト、中国の歌が多くそれ以外のアジア、アフリカの歌はうたわれなかつたように思う。

今年の運動の中では、もつとアジア、アフリカの歌をうたつてもらいたい。インド、アラブ等には非常に多くの秀れた歌がある。私たちも今後勉んで資料を提供したい。（文責記者）

日本のうたごえに参加して

もつともつとうたごえをひろめて行きます

王子春日井支部組合員

毎年厳しい霜が降りて冬がやつて来ました。私は王子製紙労組の春日井支部の一組合員です、私達の斗いも百四十五日をもつて長い、苦しかつた斗いも終りましたが実は職場に入つてから本当の斗いになるでしよう。

私達は十二月七日の日本のうたごえに参加して全員感激して帰つて来ましたが全国の皆さんが、こんなに私達の斗いを良く理解していてくれるとは思いませんでした、ところがあの日以来、私達はファイトを燃やしてもつともつと〃うたごえ〃を広めて行かなければいけないと思つています。斗いは王子だけぢやなく全国民が基地反対運動評反対等の也中小企業の労組が常に斗つているんだと云うことが良くわかりました〃うたごえ〃は斗いの中へもつともつと押し進めて行かなければなりません、私達はこの田舎都市、春日井にいてはどうしてもおくれてしまいます。又青年学級で〃うたごえ〃をすれば「赤だ」と云われてしまいます〃うたごえ〃は何故「赤」だと云われなきやいけないのでしようか？〃うたごえ〃をする上においていろいろ学びたい多くの問題があります。参考資料でもありましたらお教え下さい。

ポーランド大使館から

私は日本のうたごえのすばらしい組織と、貴女の合唱団の誠実な演奏に驚嘆いたしました。

私は、御希望がございますならば、ポーランドの楽譜やレコード等の資料を提供いたし将来、うたごえ運動発展のために御役に立てれば幸甚と存じ上げます。敬具

駐日ポーランド大使T、ツエプロウスキー　十二月十九日

たたかいの歌こそ みんなの心をつなぐ

浜松一参加者

去る十一月三十日遠州のうたごえが行われましたが、舞台と観衆とのつながりがないというのか、ただ上手に発表するということにとらわれてしまつているようで、とつてもものたりなさを感じました。それでこの目で日本のうたごえをたしかめたい、そしてそこからなにかを学びとりたいと考えてさつそく夫に話し、新婚旅行にも行かなかつたんだから、新婚旅行のつもりで行つてこようということになり、暮には少しぐらい入るのをあてにして全財産をはたいて出かけたのでした。

そうして私たちのうたごえにはたたかいがないということに気がつきました。日本のうたごえは「うたはたたかいとともに」というスローガンに全くピッタリしたものでした。繊維のうたごえ、基地農民や教員また白三十日余をたたかい続けた王子の仲間たちのうたごえなどすべてが日ごろ職場のたたかいの中で生れ歌いつづけられてきたものでした。それらのうたごえそが舞台と観客を一体とし感動をまきおこします。しかし私たちのうたごえにはそういう職場のたたかいの歴史がありません。平和運動や労働運動からはなれたところでどんなに上手に「手」や「声高く」を歌つてもほんとうの感動をまきおこすことができないのですね。（平和婦人新聞より）

正しい仕事に自信をもつた

日本のうたごえで一番苦労したのは、日本のうたごえのための組織活動でした。日本のうたごえに新らしく三名組織出来た事は、私にとつて大きな確信であり、有益な力をまつすぐに、のばしてくれる時を心から希望している。

年末闘争では、会社創立二十年来始めての実力行使を行ない、うたごえに参加した人たちがみんなを団結させるため活動した。彼等は王子の仲間の姿と〃斗いの中に〃のうたに感激して自分が変つたと云つている。私はほんとに今年は自分が正しい、すばらしい仕事をしている事に自信を持つたし、つよけて行こうと思う。（中央合唱団H子）

うたごえ運動、平和運動は職場をもたない人、家庭にいる人たちも一緒になつてやつていかなければならない。中小企業や小さなグループにうたう楽しさを教え、うたを通じて苦しさにたえ、生きるよろこびをお互いに知り、強い力を作つて行こう。（中央合唱団R子）